

11月24日に開催した「乳がん市民公開講座」に際しての皆様方からの質問への回答です。
今回は、**乳房再建**についてです。

1. **乳房再建 全般について**
2. **人工乳房（インプラント）による乳房再建について**

1. **乳房再建 全般について**

- ・ **乳房再建にかかる費用はどれくらいですか？**

→ 自家組織あるいは人工乳房を用いた再建のいずれも現在、公的医療保険の適応（原則3割の自己負担）になります。したがって高額療養費制度が利用できますので、一定額以上の支払いに対しては、その超えた金額が支給されます。

詳細は下記の厚生労働省のホームページを参照ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu_hoken/juuyou/kougakuiryuu/index.html

- ・ **乳房再建後、何年経過しても、乳房の左右差に変化はありませんか？**

→ 通常、経年的な健側乳房の下垂はだれにもおこります。一方、再建乳房はほとんど下垂しないため、年を経るに従って左右差は生じてきます。

左右差を解消するためには、健側乳房の下垂に対して乳房固定術を行なうこともできますが、これには公的医療保険が適応されません。

- ・ **乳房再建によってリンパ浮腫がでることはありますか？**

→ いずれの術式を選択する場合でも、基本的には乳房再建をすることによってリンパ浮腫になることはありません。

- ・ **両側乳房全摘した場合でも自家組織再建はできますか？**

→ 可能です。

しかし再建に用いる自家組織には制限があるわけですから、大きく下垂した乳房の両側再建はかなり難しいといえます。小さめの乳房であれば、自家組織を用いて再建するは十分可能です。必要であれば再建前に皮膚拡張器（エキスパンダー）で皮膚の拡張をはかる場合もあります（この場合は手術回数が増えることになります）。

ただし、左右差などがでにくく、手術侵襲が小さいといった理由から、両側乳房再建には、人工乳房（インプラント）による再建が良い適応になります。

- ・ 北海道大学病院では脂肪注入による乳房再建は行なっていますか？

→ 乳房全体を脂肪注入のみで再建する方法は行なっておりません。また、この方法は公的医療保険では認められておりません。

2. 人工乳房（インプラント）による乳房再建について

- ・ 北海道大学病院では公的医療保険で人工乳房（インプラント）による再建はできますか？

→ 可能です。

北海道大学病院は、乳房再建用エキスパンダー実施施設および乳房再建用インプラント実施施設に認定されています。

- ・ 人工乳房（インプラント）を用いて乳房再建を行なった場合、必ずカプセル拘縮をおこすのですか？

→ 人工物には必ずカプセル形成（人工物の周囲に被膜ができる）という生体反応が伴います。しかし、その厚さや拘縮が起こるか否かは、人工乳房の種類や術後療法などの影響により個人差があります。このたび保険収載されたインプラント（テクスチャーDタイプ）は比較的拘縮をおこしにくいとされるものです。

- ・ 人工乳房は一生使えるものですか？

→ 破損や拘縮、感染などにより交換が必要になることがあります。

- ・ 放射線治療を受けた場合でも人工乳房での再建ができますか？

→ 放射線治療した部分は創傷治癒（キズの治り）が遅延するため、合併症の頻度が増す傾向が強くなります。したがって、術後放射線照射を受けている方、もしくは照射を予定されている方では人工乳房（インプラント）は適応にならず、自家組織再建が勧められます。